



# 統計いばらき

1

- 年頭所感…「人が輝く元気で住みよいいばらき」づくりにむけて
- 統計の窓…新年にちなんで（統計インフォメーションより）干支（えと）別人口のカラクリ 茨城県の人口重心の推移～国勢調査の結果から～
- 調査から…平成21年度 学校保健統計調査結果速報



# 目 次

年頭所感 「人が輝く元気で住みよいいばらき」づくりにむけて	1
統計の窓 新年にちなんで（統計インフォメーションより）	2
干支（えと）別人口のカラクリ	4
茨城県の人口重心の推移～国勢調査の結果から～	5
調査から 平成21年度 学校保健統計調査結果速報	7
今月の主な動き	11
主要経済指標	13
人口	
1 人口・世帯	16
金融	
2 金融機関別実質預金・貸出残高	17
3 県内金融経済	17
労働	
4 産業別現金給与総額	18
5 産業別月末常用労働者数	18
6 産業別総実労働時間数	19
7 職業紹介状況	19
家計・物価	
8 家計主要指標（水戸市・全国）	20・21
9 実収入及び実支出	20・21
10 消費者物価指数（水戸市）	22・23
農業	
11 農水産物の平均販売価格	22・23
鉱工業・エネルギー	
12 鉱工業指数（季節調整済指数）	
(1) 生産指数	24・25
(2) 出荷指数	24・25
(3) 在庫指数	26・27
13 鉱工業指数（季節調整済指数）	
14 鉱工業指数（季節調整済指数）	
15 大口電力使用量	26
16 石油製品販売量	27
建築	
17 建築主別建築着工	28
18 着工新設住宅	28
企業経営・文化	
19 企業倒産状況	29
20 文化施設利用状況	29
生活・福祉	
21 消費生活相談	30
22 生活保護	30
23 自殺者数	30
安全	
24 交通事故発生件数	31
25 自動車保険請求相談	31
26 刑法犯罪発生件数	32
27 火災発生件数	32
新着資料案内	33

## 利用にあたって

- |  |  |
|--|--|
| <p>1 統計表のうち、年度は会計年度（4月から翌年3月）、年は暦年（1月から12月）の数字を示します。</p> <p>2 数値は四捨五入してあるので、数値とその内訳を合計したものが一致しない場合があります。</p> | <p>3 統計表で用いている記号の意味は次のとおりです。</p> <p>— 零または該当数字のないもの</p> <p>0 該当数字が掲載単位未満のもの</p> <p>p 暫定数字</p> <p>r 訂正数字</p> <p>△ 減少または出超</p> |
|--|--|



# 「人が輝く元気で住みよい いばらき」づくりにむけて ～新年のごあいさつ～

茨城県知事  
茨城県統計協会総裁

橋 本 昌

明けましておめでとうございます。

皆様には、すがすがしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、景気の低迷、雇用環境の悪化、新型インフルエンザの流行など大変な一年でありました。本格的な人口減少と少子高齢化、厳しい経済情勢、危機的な財政状況など、県行政を取り巻く環境は大変厳しいものがございしますが、経済・雇用対策や聖域なき行財政改革に全力で取り組みながら、本年も「人が輝く元気で住みよいいばらき」づくりにまい進してまいります。

本年は、3月に茨城空港が開港しますとともに、圏央道や東関東水戸線の一部区間が新たに開通するなど、広域交通ネットワークの整備がさらに進んでまいります。私は、これら「産業大県」づくりから生まれる活力を生かして、「生活大県」の実現を目指してまいりたいと考えております。まず、医師確保対策に一層力を入れてまいりますとともに、ドクターヘリを導入するなど救急医療体制の整備を進めてまいります。また、乳幼児医療費助成制度の拡充による子育て支援や、高齢者の健康・生きがいづくり、障害者の自立支援に取り組んでまいりますとともに、地球温暖化対策や霞ヶ浦の水質浄化に力を入れるなど、「住みよいいばらき」づくりを推進してまいります。また、「いばらきづくり」の基本は「人づくり」にありますことから、少人数学級を小学校3・4年生まで拡大するなど、子どもたちの学力の向上や豊かな心の育成に力を入れてまいりますとともに、男女共同参画社会の実現に努めるなど、「人が輝くいばらき」づくりを推進してまいります。

さらに、茨城をさらに発展させていくためには、競争力ある産業を育て、雇用をしっかりと確保していくことが必要です。このため、広域交通ネットワークの整備と併せ中小企業の振興や企業誘致、最先端科学技術の拠点づくりなどに一層力を入れ、「元氣ないばらき」づくりを推進してまいります。

現在、社会・経済を取り巻く環境に大きな変化がある中、このような施策を総合的に推進するためには、正確な現状認識と的確な将来予測が不可欠であり、その基礎資料となる統計の果たす役割は、ますます重要なものとなっております。本年は、世界農林業センサスが2月に実施されますほか、10月には、統計調査の基本となります国勢調査が予定されております。

皆様方には、統計の社会的意義と使命をご理解いただき、統計調査へのなお一層のご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈りいたしまして、新年のあいさつといたします。本年もよろしくお願いいたします。



# 【寅年生まれば24万1,600人 十二支別では8位】

新年の干支は「寅（とら）」です。そこで今回は、茨城県内の寅年生まれの人口を茨城県常住人口調査結果から推計してみました。

平成22年1月1日現在の寅年の年男・年女は、推計で241,600人（県の総人口に占める割合8.14%）となっています。男女別にみると、男性は120,400人、女性は121,200人で、女性の方が800人多くなっています。

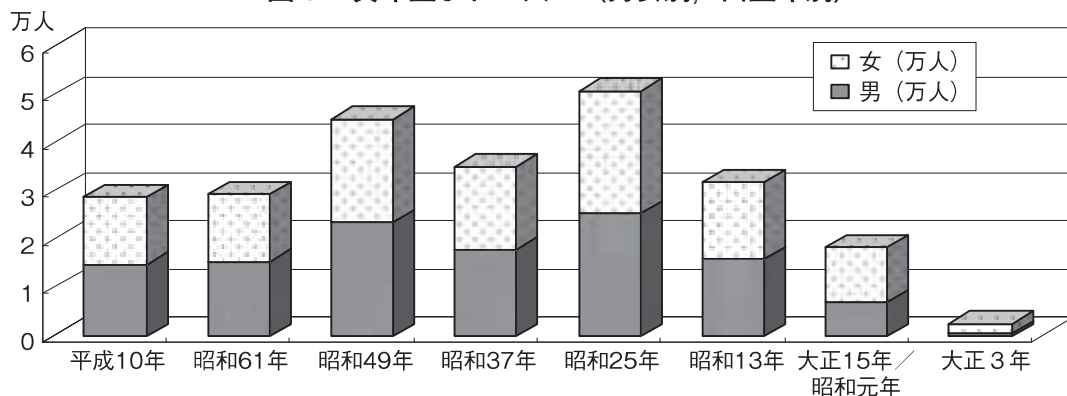
寅年生まれの人口を出生年別にみると、昭和25年生まれ（平成22年中に60歳になる人）が50,700人で最も多く、次いで昭和49年生まれ（同36歳になる人）が44,900人、昭和37年生まれ（同48歳になる人）が35,100人となっています。（表1、図1）

表1 茨城県内の寅年生まれの人口（推計，平成22年1月1日現在）

生まれた年・年齢		男女計		男		女	
			割合		割合		割合
総数	—	241,600人	100.0%	120,400人	100.0%	121,200人	100.0%
1998年（H10）	12歳	28,800人	11.9%	14,800人	12.3%	14,000人	11.6%
1986年（S61）	24歳	29,300人	12.1%	15,400人	12.8%	13,900人	11.5%
1974年（S49）	36歳	44,900人	18.6%	23,500人	19.5%	21,400人	17.7%
1962年（S37）	48歳	35,100人	14.5%	17,900人	14.9%	17,200人	14.2%
1950年（S25）	60歳	50,700人	21.0%	25,400人	21.1%	25,300人	20.9%
1938年（S13）	72歳	31,900人	13.2%	15,800人	13.1%	16,100人	13.3%
1926年（T15/S元）	84歳	18,400人	7.6%	7,000人	5.8%	11,400人	9.4%
1914年（T3）	96歳	2,500人	1.0%	500人	0.4%	2,000人	1.7%

(注1) 人口は100人単位に四捨五入してあるので、内訳の合計は必ずしも総数に一致しない。  
 (注2) 年齢は平成22年中に誕生日を迎えた時の年齢。  
 (注3) 1月1日現在の推計のため、平成22年生まれの寅年の人は含まれない。  
 (注4) 常住人口調査では100歳以上の人口は1歳ごとに集計していないため、今回の推計では108歳の人数はカウントしていない。

図1 寅年生まれの人口（男女別，出生年別）



(注) 茨城県常住人口調査結果から推計。平成22年1月1日現在。



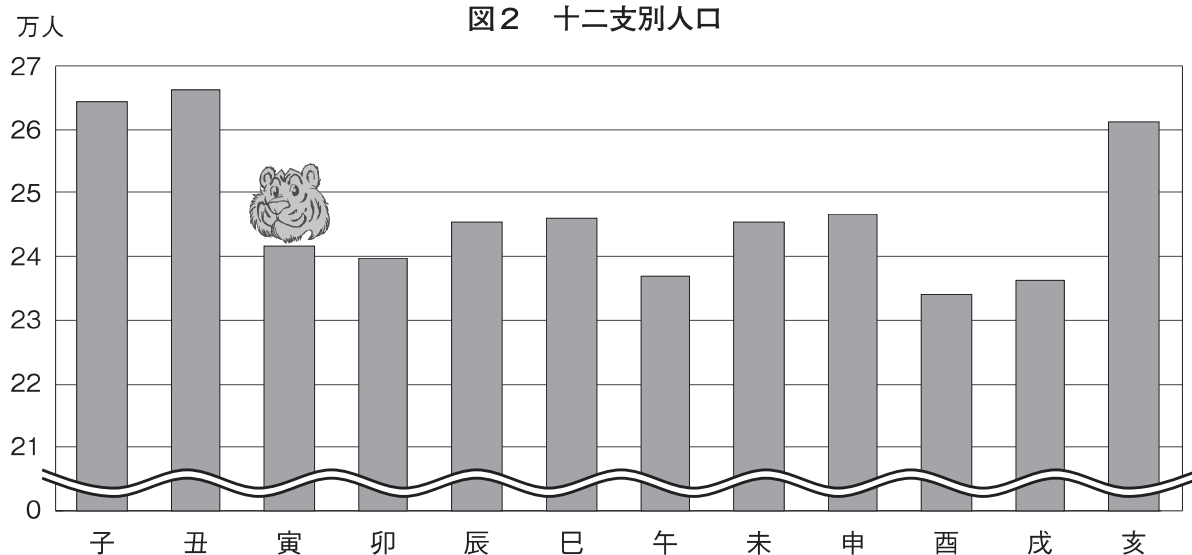
また総人口を十二支別にみると、丑（うし）年生まれが266,300人で最も多く、次いで子（ね）年生まれ、亥（い）年生まれとなり、最も少ないのが酉（とり）年生まれとなっています。寅年は8番目です。（表2、図2）

表2 茨城県内十二支別人口（推計，平成22年1月1日現在）

十二支	人口	順位	総人口に占める割合
子（ね）	264,300人	2位	8.91%
丑（うし）	266,300人	1位	8.97%
寅（とら）	241,600人	8位	8.14%
卯（う）	239,600人	9位	8.08%
辰（たつ）	245,500人	6位	8.27%
巳（み）	246,100人	5位	8.29%
午（うま）	237,000人	10位	7.99%
未（ひつじ）	245,400人	7位	8.27%
申（さる）	246,800人	4位	8.32%
酉（とり）	234,200人	12位	7.89%
戌（いぬ）	236,400人	11位	7.97%
亥（い）	261,300人	3位	8.81%
100歳以上，不詳	2,700人	—	—
計	2,967,200人		100.00%

（注）人口は100人単位に四捨五入してあるので、内訳の合計は必ずしも総数に一致しない。

図2 十二支別人口



（注）茨城県常住人口調査結果から推計。平成22年1月1日現在。

－茨城県常住人口調査について－

茨城県常住人口調査は、国勢調査の間における県内各市町村ごとの人口及び世帯の移動状況を明らかにするために、県統計課が実施しているものです。国勢調査による人口及び世帯数を基礎とし、これに毎月、市町村から報告のあった出生・死亡・転入・転出者数及び世帯数の増減数を加えて推計しています。

# 干支（えと）別人口のカラクリ

茨城県企画部統計課 石井孝一

年末になると、茨城県統計課や総務省統計局などが、新年の干支（今回は「寅年」生まれ）の人口を推計して公表しています。

干支は、全部で12あります。

その中で、新年の干支の人口は何番目に多いのでしょうか。

茨城県統計課が平成21年12月25日に公表した「寅年」生まれの人口は、元日現在、24万1600人で、十二支中8位となっています。

では、「寅年」生まれの人口は毎年8位なのでしょうか。

来年の今頃、「卯年」生まれの推計人口が公表される頃、「卯年」生まれの人口は「9位」、「寅年」生まれの人口はきっと「1位」になっていることでしょう。

それはいったい、どういうことなのでしょうか。

転入や転出を考えなければ、人口の増減は生死の数によって決まります。

自分の干支の人口が増えるチャンスは、12年のうち1年間しかありません。

例えば「寅年」であれば、過去11年間、「寅年」はありませんでしたので、「寅年」生まれは誕生せず、死亡者数だけが増えていく、つまり、干支人口は毎年減り続けていくことになるのです。逆に、「寅年」が干支になる平成22年（2010年）は、その年に生まれた新生児が「寅年」人口に加わります。

当年の新生児は、決して他の干支生まれになることはありません。

（一部の芸能人や自己紹介の時などで、まれに発生することがあるようですが！）

これで、もうお分かりですね。

結論は、

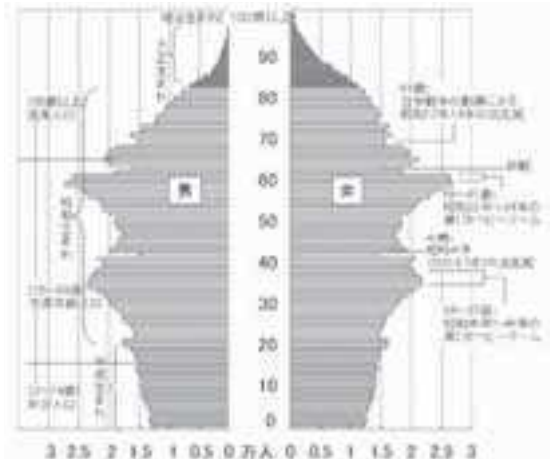
\*\*\*\*\*  
 \*\* 理論上は、元日現在、新年の干支の人口は最も少なく、\*\*  
 \*\* 前年の干支人口が最も多い。 \*\*  
 \*\*\*\*\*  
 ということになります。

ちょっと待ってください。「1年後に「寅年」生まれ人口が1位になるらしいことは分かったけど、干支の前年は最下位の12位でなくて何で8位なの？」

こんな疑問がわいてきますね。

「理論上」は、人口ピラミッドが文字どおりピラミッド型又はきれいな富士山型をしている国ほど強く当てはまります。

茨城県の人口ピラミッド(平成21年1月1日現在)



資料：茨城県統計課「茨城県の年齢別人口」から作成

しかし、日本では、第二次世界大戦、ベビーブーム、第二次ベビーブーム、丙午（ひのえうま）、少子化などが影響して、必ずしも理論どおりの干支人口とはなっていないのです。

茨城県の人口ピラミッドをみると、昭和19～21年の終戦前後による出生減で「申（さる）」、「酉（とり）」、「戌（いぬ）」年生まれが、昭和41年「ひのえうま」の出生減で「午（うま）」年生まれが影響を受け、それぞれ干支別人口で12位、11位、10位となっています。

一方、昭和22～24年の第一次ベビーブームによる出生増で「亥（い）」、「子（ね）」、「丑（うし）」年生まれが、昭和46～49年の第二次ベビーブームによる出生増で「亥」、「子」、「丑」、「寅」年生まれがそれぞれ影響を受け、「理論上」よりも、人口が多めになります。

## 茨城県の人口重心の推移～国勢調査の結果から～

平成22年10月1日に、5年に一度の国勢調査が行われます。国勢調査は、大正9年（1920年）から現在まで続いている最も重要な統計調査で、今回で19回目に当たります。

国勢調査の結果から得られたデータは、少子高齢化対策、都市計画、防災計画、過疎対策など、国や地域の様々な政策の基礎資料として広く活用されています。今回は、国勢調査結果から算出された茨城県の人口重心について紹介します。

まず、人口重心とは、人口の1人1人が同じ重さを持つと仮定して、その地域内の人口が、全体として平衡を保つことのできる点（重心）をいいます。

人口重心によって、その地域の人口の分布や移動の状況を示すことができます。

また、重心の位置を時系列的に表示することによって、人口分布の推移を把握することができます。

図1及び表1をみると、大正9年から昭和10年までは、重心の位置は石岡市（旧八郷町）東成井（ひがしなるい）あたりでほとんど変化がありませんが、昭和10年から15年にかけて北東に向けて重心が移動します。これは日立市を中心とした軍需工場の拡大等によって、労働力人口が県北地域に流入したためです。

昭和22年の臨時国勢調査では、戦争によって工業地域が破壊されたため、県北地域の人口が減少し、人口重心は昭和10年当時とほぼ同じ位置に戻ります。

昭和25年から昭和40年にかけて、高度経済成長等により日立市・ひたちなか市（旧勝田市）を中心とした県北地域の工業地域に人口が流入し、再び北東に人口重心が移動します。昭和30年には日立市の人口は水戸市を抜いて県内1位になり、昭和51年10月1日現在まで県内で最も人口が多い市でした。

昭和45年以降は、一転して人口重心は南南西の方角に向けて移動します。鹿島開発、筑波研究学園都市の建設、県南地域の首都圏のベッドタウン化等により、県南地域に人口が流入したためです。

上の写真は、平成17年の人口重心位置で撮影したものです。茨城県の人口重心位置は、東経140度13分44秒、北緯36度13分16秒で、石岡市正上内（しょうじょううち）あたりです。背景に見えるのは、（仮称）石岡・小美玉スマートICの工事箇所です。

茨城県常住人口調査によると、平成17年国勢調査以後も、つくばエクスプレスの開通等により県南地域の人口は増加しており、平成22年の国勢調査結果では、さらに南に人口重心が移動することが予想されます。

人口は、社会を構成する最も基礎的な要素であり、人口の変化は社会情勢の変化と密接に関係しています。人口重心の推移は、茨城県が歩んできた歴史であるともいえるでしょう。



平成17年国勢調査 茨城県人口重心地点  
石岡市正上内 地内（平成22年1月吉日撮影）



「平成22年国勢調査」にご協力をお願いします！

～調査期日は10月1日（金）です～



# 平成21年度 学校保健統計調査結果速報

この速報は、文部科学省が平成21年度に実施した「学校保健統計調査（基幹統計）」のうち児童、生徒及び幼児の発育状態及び健康状態について、本県の調査結果の一部を集計したものです。

調査結果の詳細については、後日「平成21年度茨城県の児童・生徒の体格と疾病（学校保健統計調査結果報告書）」として発行する予定です。

なお、この速報に掲載した数値はいずれも速報値であり、後日文部科学省が公表する数値（確定値）と異なる場合があります。

## 調査結果の概要

### 〈A 発育状態〉

#### 1 身長・体重・座高の茨城県平均値

##### (1)身長

男子の身長は、5～6歳、9歳、12～13歳、16～17歳で前年度より伸びている。各年齢間の身長差は、11歳と12歳の間が7.7cmと最も大きく16歳と17歳の間が0.4cmと最も小さい。なお、6歳の117.2cmと9歳の134.6cmは過去最高となっている。

女子の身長は、5歳、10～11歳、13歳、16歳で前年度より伸びている。各年齢間の身長差は、9歳と10歳の間が7.7cmと最も大きく、16歳と17歳の間が0.2cmと最も小さい。

また、10歳と11歳で2.2cm、女子の身長が男子の身長を上回っている。

表1 男女別年齢別 身長（平均値）－茨城県 (単位：cm)

区 分	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
男	21年度	110.9	<u>117.2</u>	122.5	128.4	<u>134.6</u>	138.7	145.0	152.7	159.8	165.3	168.6	170.3
	20年度	110.7	117.1	122.5	128.4	133.8	139.3	<u>145.9</u>	152.6	159.6	165.4	168.7	169.7
	差	0.2	0.1	-	-	0.8	△0.6	△0.9	0.1	0.2	△0.1	△0.1	0.6
女	21年度	110.0	115.5	121.6	127.2	133.2	140.9	147.2	151.7	155.1	156.7	157.3	157.7
	20年度	109.7	115.9	121.6	127.4	134.0	140.3	146.7	151.9	154.6	156.7	157.3	157.4
	差	0.3	△0.4	-	△0.2	△0.8	0.6	0.5	△0.2	0.5	-	-	0.3

(注) 下線部分は、調査実施以来の過去最高を示す。

##### (2)体 重

男子の体重は、6歳、9歳、で前年度より増えている。各年齢間の体重差は、14歳と15歳の間が5.8kgと最も大きく、16歳と17歳の間が1.1kgと最も小さい。

女子の体重は、10歳、13歳で前年度より増えている。各年齢間の体重差は、9歳と10歳の間が5.2kgと最も大きく、16歳と17歳の間が0.2kgと最も小さい。

また、10歳では0.2kg、11歳では0.9kg、女子の体重が男子の体重を上回っている。

表2 男女別年齢別 体重（平均値）－茨城県 (単位：kg)

区 分	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
男	21年度	19.3	22.0	24.3	28.1	31.9	35.0	39.3	44.7	49.9	54.7	60.5	62.0
	20年度	19.4	21.9	24.5	28.1	31.7	35.2	40.4	45.4	50.1	55.3	61.0	62.6
	差	△0.1	0.1	△0.2	-	0.2	△0.2	△1.1	△0.7	△0.2	△0.6	△0.5	△0.6
女	21年度	18.9	21.2	23.7	26.8	30.0	35.2	40.2	44.4	48.5	50.4	51.0	52.8
	20年度	19.0	21.6	23.8	26.8	31.2	34.7	40.7	45.2	47.9	50.9	52.9	53.6
	差	△0.1	△0.4	△0.1	-	△1.2	0.5	△0.5	△0.8	0.6	△0.5	△1.9	△0.8



## ■調査から

### (3)座 高

男子の座高は、5歳、9歳、13歳で前年度より伸びている。各年齢間の座高差は、11歳と12歳、12歳と13歳の間が3.6cmと最も大きく、16歳と17歳の間が0.5cmと最も小さい。なお、9歳の73.2cmは過去最高となっている。

女子の座高は、5歳、10歳、12～14歳で前年度より伸びている。各年齢間の座高差は、9歳と10歳の間が3.9cmと最も大きく、15歳と16歳の差はない。なお、13歳の84.2cmは過去最高となっている。

また、10歳で1.5cm、11歳で1.7cm、12歳で0.8cm、女子の座高が男子の座高を上回っている。

表3 男女別年齢別 座高（平均値）－茨城県

（単位：cm）

区 分	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
男	21年度	62.3	65.1	67.7	70.4	73.2	74.9	77.7	81.3	84.9	88.2	90.1	90.9	91.4
	20年度	62.0	65.1	67.8	70.5	73.0	75.1	78.2	81.3	84.7	88.3	90.1	90.9	91.6
	差	0.3	-	△0.1	△0.1	0.2	△0.2	△0.5	-	0.2	△0.1	-	-	△0.2
女	21年度	61.9	64.4	67.2	69.8	72.5	76.4	79.4	82.1	84.2	85.0	84.8	85.1	85.1
	20年度	61.5	64.6	67.4	70.1	73.0	76.0	79.4	82.0	83.6	84.9	85.0	85.1	85.6
	差	0.4	△0.2	△0.2	△0.3	△0.5	0.4	-	0.1	0.6	0.1	△0.2	-	△0.5

## 2 全国値との比較

身長を全国平均値と比較してみると、男子は5～6歳、8～9歳、12～16歳で、女子は5歳、10～11歳、13～16歳で全国平均以上になっている。

体重は、男子は全年齢で、女子は5～14歳、16～17歳で全国平均以上になっている。

座高は、男子は5～9歳、11～14歳で、女子は5歳、10～14歳で全国均以上になっている。

表4 男女別年齢別 体格（平均値）〔全国値との比較〕

区 分	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
身長 (cm)	茨城県	110.9	117.2	122.5	128.4	134.6	138.7	145.0	152.7	159.8	165.3	168.6	170.3	170.7
	全国	110.7	116.7	122.6	128.3	133.6	138.9	145.1	152.5	159.7	165.2	168.5	169.9	170.8
	差	0.2	0.5	△0.1	0.1	1.0	△0.2	△0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.4	△0.1
体重 (kg)	茨城県	19.3	22.0	24.3	28.1	31.9	35.0	39.3	44.7	49.9	54.7	60.5	62.0	63.1
	全国	19.0	21.5	24.1	27.2	30.6	34.2	38.4	44.2	49.1	54.3	59.5	61.3	63.1
	差	0.3	0.5	0.2	0.9	1.3	0.8	0.9	0.5	0.8	0.4	1.0	0.7	-
座高 (cm)	茨城県	62.3	65.1	67.7	70.4	73.2	74.9	77.7	81.3	84.9	88.2	90.1	90.9	91.4
	全国	61.9	64.9	67.7	70.3	72.7	75.0	77.6	81.3	84.9	88.1	90.3	91.2	91.8
	差	0.4	0.2	-	0.1	0.5	△0.1	0.1	-	-	0.1	△0.2	△0.3	△0.4
座高 (cm)	茨城県	61.9	64.4	67.2	69.8	72.5	76.4	79.4	82.1	84.2	85.0	84.8	85.1	85.1
	全国	61.5	64.5	67.3	70.0	72.7	75.9	79.3	82.1	83.7	84.8	85.3	85.6	85.7
	差	0.4	△0.1	△0.1	△0.2	△0.2	0.5	0.1	-	0.5	0.2	△0.5	△0.5	△0.6

## 〈B 健康状態〉

### 1 主な疾病・異常の被患率の推移

主な疾病・異常の被患率の推移をみると表5のとおりとなっている。

表5 主な疾病・異常の被患率の推移

(%)

区分		むし歯(う歯)			裸眼視力				鼻・副鼻腔疾患の者
		計	処置完了者	未処置のある者	計	1.0未満 0.7以上	0.7未満 0.3以上	0.3未満	
幼稚園	平成12年度	64.1	20.7	43.4	39.3	32.8	6.2	0.3	0.3
	13	61.3	20.6	40.7	22.9	15.8	6.7	0.4	0.0
	14	62.8	22.2	40.6	26.8	17.0	9.4	0.4	0.1
	18	60.9	23.7	37.2	X	X	X	X	1.0
	19	59.8	21.3	38.6	25.0	18.9	4.9	1.1	2.3
	20	52.9	17.8	35.1	X	X	X	X	0.8
	21	53.8	18.3	35.6	X	X	X	X	0.8
小学校	平成12年度	81.8	37.8	44.1	23.5	9.5	8.8	5.2	2.8
	13	81.4	34.9	46.6	24.9	10.8	8.4	5.7	2.9
	14	74.7	33.5	41.2	22.5	9.1	8.1	5.3	3.2
	18	71.9	32.5	39.3	23.7	9.7	9.0	5.0	6.0
	19	70.1	31.0	39.2	26.8	10.0	10.2	6.6	4.0
	20	69.5	30.4	39.1	26.9	10.6	10.7	5.6	5.5
	21	66.7	30.7	36.0	28.4	10.2	11.2	7.0	5.7
中学校	平成12年度	79.5	41.8	37.6	48.0	12.4	14.2	21.4	1.1
	13	79.1	40.4	38.6	48.9	11.5	15.1	22.3	2.0
	14	77.7	41.4	36.3	46.8	10.8	15.2	20.9	2.2
	18	68.1	37.9	30.2	45.4	10.3	16.3	18.8	3.9
	19	64.0	30.1	33.9	50.9	10.3	16.1	24.6	4.3
	20	61.6	32.7	28.8	51.2	10.3	16.7	24.2	5.5
	21	56.2	29.6	26.5	51.1	11.1	18.1	21.8	5.1
高等学校	平成12年度	86.2	53.1	33.1	67.1	9.6	18.0	39.5	3.3
	13	84.9	49.2	35.8	64.5	11.2	16.8	36.5	2.4
	14	83.2	50.6	32.6	62.3	10.8	16.1	35.4	4.9
	18	70.7	41.4	29.4	68.7	10.6	15.2	42.9	14.3
	19	71.9	37.9	34.0	64.4	12.5	17.0	35.0	2.2
	20	70.5	33.5	37.1	X	X	X	X	2.7
	21	61.4	35.3	26.1	64.6	10.4	16.0	38.1	4.3

(注) 平成15年度～17年度は都道府県別の数値は公表していない。

平成14年度までの調査対象：調査実施校の各学年ごとに抽出された学級全員。

平成18年度の調査対象：調査実施校に在籍する全児童生徒。

「X」は疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

小数点以下第2位を四捨五入している。以下の各表において同じ。

## 2 むし歯(う歯)のある者の割合

むし歯のある者の割合(処置完了者を含む。以下同じ。)は、幼稚園53.8%、小学校66.7%、中学校56.2%、高等学校61.4%となっており、小学校、中学校、高等学校で前年度より低下しているが、幼稚園、小学校、中学校では、被患率が最も高い疾病・異常となっている。

全国と比較すると、幼稚園は7.3ポイント、小学校は4.9ポイント、中学校は3.3ポイント全国平均を上回っている。

年齢別にみると9歳が73.4%と最も高くなっている。

表6 学校段階別 むし歯の者の割合

(単位：%)

区分		計			処置完了者			未処置歯のある者		
		計	男	女	計	男	女	計	男	女
幼稚園 (5歳)	茨城県	53.8	55.6	52.0	18.3	17.5	19.1	35.6	38.1	32.9
	全国	46.5	47.6	45.3	18.8	19.1	18.4	27.7	28.5	26.9
	差	7.3	8.0	6.7	△0.5	△1.6	0.7	7.9	9.6	6.0
小学校	茨城県	66.7	68.8	64.5	30.7	31.6	29.8	36.0	37.3	34.8
	全国	61.8	63.3	60.3	30.3	30.7	29.9	31.5	32.5	30.4
	差	4.9	5.5	4.2	0.4	0.9	△0.1	4.5	4.8	4.4
中学校	茨城県	56.2	54.6	57.8	29.6	27.9	31.5	26.5	26.8	26.2
	全国	52.9	51.0	54.8	28.8	27.0	30.7	24.1	24.0	24.1
	差	3.3	3.6	3.0	0.8	0.9	0.8	2.4	2.8	2.1
高等学校	茨城県	61.4	60.1	62.8	35.3	32.6	38.2	26.1	27.6	24.6
	全国	62.2	59.6	64.8	34.7	31.9	37.7	27.5	27.8	27.1
	差	△0.8	0.5	△2.0	0.6	0.7	0.5	△1.4	△0.2	△2.5

### 3 裸眼視力1.0未満の者の割合

裸眼視力1.0未満の者の割合は、小学校28.4%，中学校51.1%，高等学校64.6%となっており，高等学校では被患率が最も高い疾病・異常となっている。

前年度と比較すると，小学校では前年度より上昇している。

全国と比較すると，小学校は1.3ポイント，中学校は1.4ポイント全国平均を下回っているが，高等学校では5.2ポイント上回っている。

年齢別にみると，0.3未満の者の占める割合が年齢が進むにつれて高くなっている。

表7 学校段階別 裸眼視力1.0未満の者の割合

(単位：%)

区 分	計			1.0未満～0.7以上			0.7未満～0.3以上			0.3未満			
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	
幼稚園 (5歳)	茨城県	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
	全 国	24.9	24.1	25.7	18.8	18.5	19.1	5.5	5.1	5.9	0.6	0.5	0.7
	差	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	
小学校	茨城県	28.4	35.3	31.5	10.2	9.1	11.2	11.2	10.3	12.1	7.0	5.8	8.2
	全 国	29.7	26.9	32.6	10.9	10.1	11.8	11.5	10.6	12.5	7.3	6.3	8.3
	差	△1.3	8.4	△1.1	△0.7	△1.0	△0.6	△0.3	△0.3	△0.4	△0.3	△0.5	△0.1
中学校	茨城県	51.1	45.0	57.4	11.1	10.6	11.6	18.1	17.2	19.1	21.8	17.2	26.8
	全 国	52.5	48.3	56.9	12.5	12.5	12.6	18.0	17.5	18.6	22.0	18.4	25.8
	差	△1.4	△3.3	0.5	△1.4	△1.9	△1.0	0.1	△0.3	0.5	△0.2	△1.2	1.0
高等学校	茨城県	64.6	59.8	X	10.4	12.9	X	16.0	17.2	X	38.1	29.7	X
	全 国	59.4	58.1	60.7	13.6	14.5	12.6	18.1	18.0	18.2	27.7	25.6	29.8
	差	5.2	1.7	…	△3.2	△1.6	…	△2.1	△0.8	…	10.4	4.1	…

[X]は疾病・異常被患率の標準誤差が5%以上，受検者数が100人（5歳は50人）未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

### 4 鼻・副鼻腔疾患の者の割合

鼻・副鼻腔疾患の者の割合は，幼稚園0.8%，小学校5.7%，中学校5.1%，高等学校4.3%となっており，前年度と比較すると，中学校は前年度より低下しているが，小学校，高等学校とも前年度より上昇している。

全国と比較すると，すべての学校段階で全国平均を下回っている。

年齢別にみると，9歳が8.6%と最も高くなっており，小学校，中学校の学校段階で割合が高くなっている。

表8 学校段階別 鼻・副鼻腔疾患の者の割合

(単位：%)

区 分	計	男	女	
幼 稚 園 (5歳)	茨 城 県	0.8	1.2	0.4
	全 国	4.0	4.7	3.3
	差	△3.2	△3.5	△2.9
小 学 校	茨 城 県	5.7	6.8	4.6
	全 国	12.6	15.4	9.6
	差	△6.9	△8.6	△5.0
中 学 校	茨 城 県	5.1	5.6	4.6
	全 国	10.8	12.7	8.9
	差	△5.7	△7.1	△4.3
高 等 学 校	茨 城 県	4.3	3.5	5.2
	全 国	9.6	10.5	8.7
	差	△5.3	△7.0	△3.5

(注) 本調査の結果報告書(全文)は「いばらき統計情報ネットワーク」に掲載しておりますので，ご参照ください(PDF形式)。

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/kyouiku/gakuhoken21s/index.html>

●今月の主な動き ●  ●今月の主な動き ●

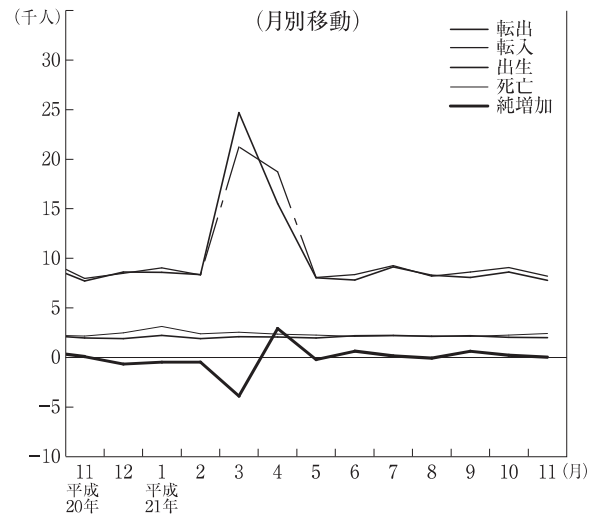
今月の主な動き

■人口 (21年12月1日現在)

11月の概況

推計人口 2,967,615人 (対前月 11人)  
 (男 1,476,767人, 女 1,490,848人)  
 〈内訳〉 自然動態 △428人  
 (出生 1,970人, 死亡 2,398人)  
 社会動態 439人  
 (転入 8,139人, 転出 7,700人)  
 世帯数 1,090,416世帯 (対前月 661世帯)

人 口



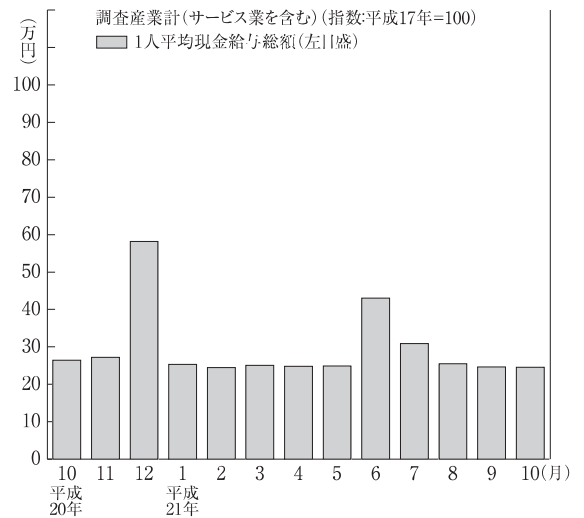
■賃金・労働時間・雇用 (21年10月)

現金給与総額 245,551円 (△4.5%)  
 きまって支給する給与 244,240円 (△4.2%)  
 特別に支払われた給与 1,311円

総実労働時間 145.2時間 (△ 6.3%)  
 所定内労働時間 135.5時間 (△ 6.1%)  
 所定外労働時間 9.7時間 (△ 8.4%)

※ 事業所規模5人以上, ( )内は前年同月比。

賃金・労働時間・雇用



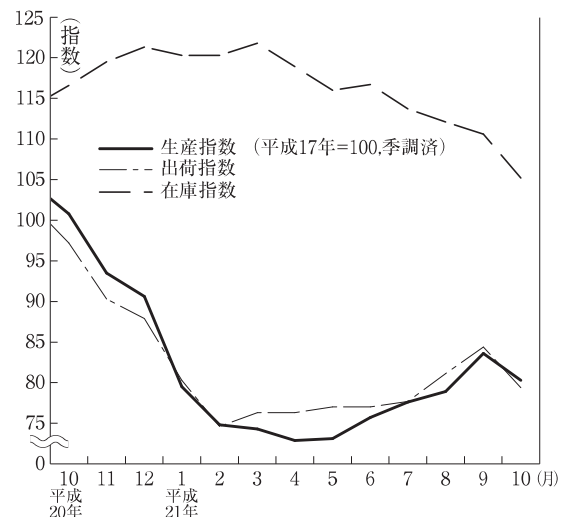
■鉱工業指数 (21年10月) (季調済, H17年=100)

生産 80.3 (前月比 △3.9%, 前年同月比(原指数) △19.8%)  
 上昇…情報通信機械工業, 輸送機械工業等  
 低下…化学工業, 電気機械工業, 非鉄金属工業等

出荷 79.4 (前月比 △5.9%, 前年同月比(原指数) △18.4%)  
 上昇…輸送機械工業, 精密機械工業等  
 低下…化学工業, 一般機械工業, 電気機械工業等

在庫 105.2 (前月比 △4.9%, 前年同月比(原指数) △10.0%)  
 上昇…化学工業, パルプ・紙・紙加工品工業  
 低下…一般機械工業, 非鉄金属工業, 食品・たばこ工業等

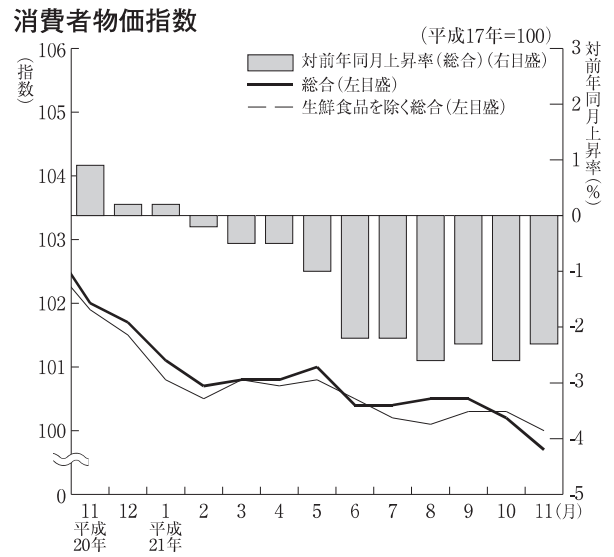
鉱工業指数〈生産・出荷・在庫〉





● 今月の主な動き ● ● 今月の主な動き ●

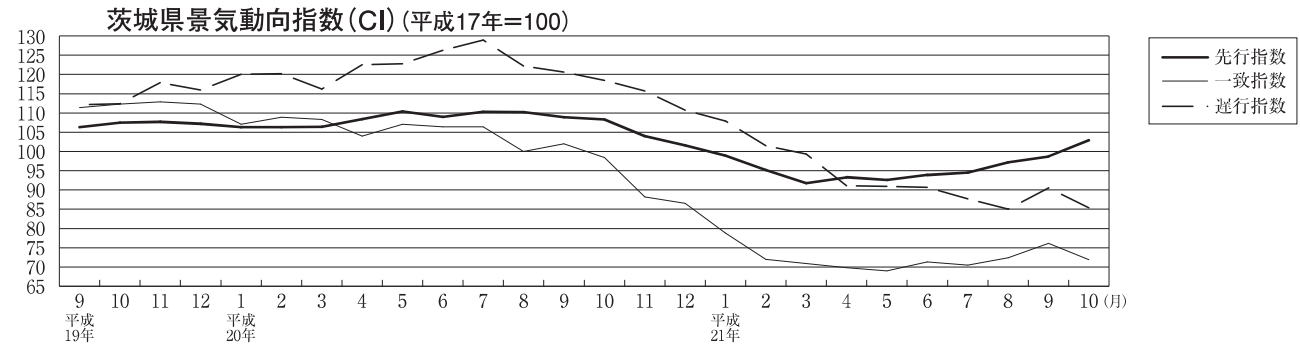
■ **消費者物価指数** (21年11月) (県平均, H17=100)  
 総合 **99.7** (前月比 △0.5%, 前年同月比 △2.3%)  
 上昇した項目…履物類, 飲料, 他の光熱など  
 下落した項目…生鮮果物, 教養娯楽サービス, 生鮮野菜など  
 生鮮食品を除く総合 **100.0** (前月比 △0.3%, 前年同月比 △1.9%)



■ **費目別指数** (平成17年=100)

区分	指数	上昇率(%)		区分	指数	上昇率(%)	
		対前月	対前年同月			対前月	対前年同月
総合	99.7	△0.5	△2.3	保健医療	101.6	0.1	0.1
食料	101.5	△1.0	△3.4	交通・通信	96.6	△0.3	△2.2
住居	99.9	0.0	△0.2	教育	104.9	0.0	1.7
光熱・水道	105.9	0.3	△5.7	教養娯楽	93.8	△1.3	△3.1
家具・家事用品	91.4	△0.5	△5.3	諸雑費	101.1	△0.6	△0.5
被服及び履物	103.5	0.5	△3.5	生鮮食品を除く総合	100.0	△0.3	△1.9

■ **景気動向指数** (21年10月)

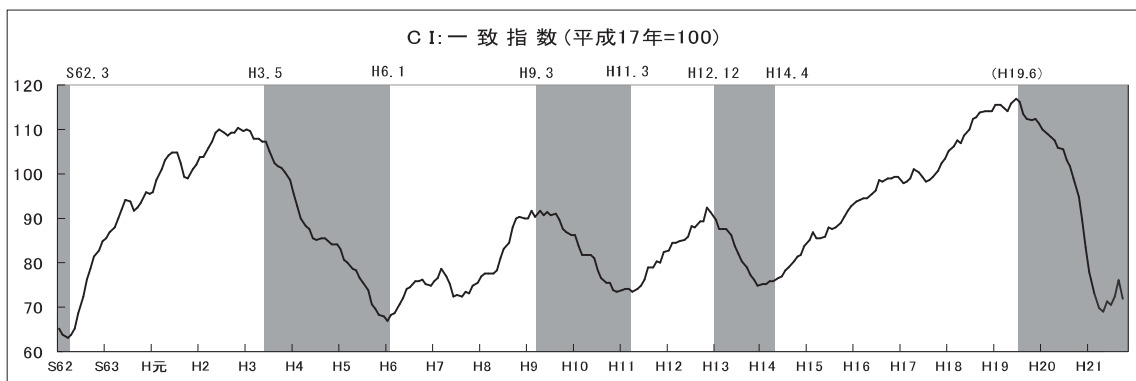


《CI (コンポジット・インデックス)》

先行指数 102.9 対前月比 4.2%上昇 対前年同月比 5.2%低下  
 一致指数 71.9 対前月比 5.6%低下 対前年同月比 25.3%低下  
 遅行指数 85.4 対前月比 5.6%低下 対前年同月比 28.0%低下

平成21年10月のCI (平成17年=100) は、先行指数102.9、一致指数71.9、遅行指数85.4となりました。この結果、前月に比べ、先行指数が4.2%上昇、一致指数が5.6%低下、遅行指数が5.6%低下しました。一方、対前年同月比でみると、先行指数が5.2%低下、一致指数が25.3%低下、遅行指数が28.0%低下しました。

茨城県景気動向指数 (CI一致指数, 3か月移動平均グラフ)



《DI (ディフュージョン・インデックス)》

先行指数 87.5% 3か月連続50%を上回りました。  
 一致指数 57.1% 3か月連続50%を上回りました。  
 遅行指数 57.1% 2か月連続50%を上回りました。